

軽商用車「ハイゼット」シリーズ、初代発売から60年

～60年間支えていただいたお客様へ感謝を申し上げます～



初代「ハイゼット」(1960年発売)



ハイゼット トラック エクストラSAIII t
(オプション装着車)



ハイゼット カーゴ デラックスSAIII

ダイハツ工業株式会社(以下ダイハツ)の軽商用車「ハイゼット」シリーズは、2020年11月で1960年の初代「ハイゼット」発売以来60年を迎えた。これまで60年間「ハイゼット」シリーズを支えていただいたお客様へ感謝を申し上げるとともに、これからもお客様の暮らしに寄り添ったクルマづくりを続けていく。

現在の「ハイゼット」シリーズは、農林水産業を中心に使用されている「ハイゼット トラック」、配送業や小売業などを中心に使用されている「ハイゼット カーゴ」「ハイゼット キャディー」の3モデルで構成され、これまでの累計生産台数は約740万台^{※1}に上る。また現在の総保有台数は約220万台^{※1}となり、全国で大変多くのお客様にご愛用いただいている。

初代「ハイゼット」は、当時人気となっていた軽三輪自動車「ミゼット」に続き、より積載力を高め、様々な仕事で活躍できる一台として誕生したダイハツ初の軽四輪自動車である。以降60年間にわたり、軽商用車で重視される「乗り降りがしやすいキャビンと仕事に必要な積載力の高い荷台/荷室」という構造を維持し続けてきた。さらに、毎日使うクルマだからこそ求められる荷物の積みおろしのしやすさや耐久性、田んぼのあぜ道から下町の路地まで、狭い道路でも走れる取り回しの良さ、そしてお求めやすい価格に徹底的にこだわってきた。また、ダンプシリーズをはじめとした豊富な特装车など、様々なお客様に寄り添えるラインナップをご用意してきた。

さらに近年では、軽商用車を買入れ物や通勤・通学、送迎など日常生活でお使いいただくお客様の増加^{※2}や、高齢ユーザー比率の高まりを踏まえ、様々なシーンで安全・安心にご使用いただけるよう、いち早く予防安全機能「スマートアシスト」を採用してきた。お客様の「頼れる相棒」として活躍してきた「ハイゼット」シリーズは、「良品廉価」「最小単位を極める」「先進技術をみんなのものに」といったダイハツのクルマづくりの思想を体現した一台である。

ダイハツは今後も、お客様一人ひとりを照らし、軽やかなモビリティライフを提供するというグループスローガン“Light you up”の考え方のもと、「ハイゼット」シリーズを進化させていく。

※1：ダイハツ調べ。2020年9月末時点。累計生産台数はダイハツブランドのみ(OEM供給台数は含まない)

※2：出典 一般社団法人日本自動車工業会「軽自動車の使用実態調査報告書」(2020年3月)

【 60 周年記念ロゴ】



【 60 年の歩み～歴代「ハイゼット トラック」「ハイゼット カーゴ」（抜粋）～】

（歴代全モデルの詳細は、下記URLより、60 周年記念サイトをご覧ください）

< 初代 >

**1960年11月**

高度経済成長期の真っただ中、当時大ヒットしていた軽三輪自動車「ミゼット」に続き、ダイハツ初の軽四輪自動車（360 cc）として発売。当時の軽四輪自動車のイメージを刷新する斬新なデザインで、積載性だけでなく、居住性にもこだわりました。1961年にはボンネットバンタイプも発売し、「ビジネスとレジャーを結ぶニューファミリーカー」として、一家に一台のマイカー時代を支えました。

< 2 代目 >

**1964年4月（トラック）**

経済成長にあわせハイゼットの需要が著しく伸長していた中、荷台をフルに使えるタイプへのご要望にお応えし、フロントエンジンのキャブトラックとして2代目を発売。エンジンを座席下に配置することで、荷室とキャブの最大化を実現しました。1965年には「ハイゼット カーゴ」のもとなるキャブバンタイプを発売しました。

< 4 代目 >

**1971年9月（トラック）**

4代目では積載性、乗り心地や居住性などを向上。また翌72年に、軽ライトバンで初めてスライド式ドアを採用した「ハイゼットスライドバン」を発売し、利便性を向上しました。この頃ダイハツは電気自動車に積極的に取り組んでおり、4代目では急速充電システム付きの「クイックチャージ式電気自動車」を開発、1976年の大阪国際見本市に出展しました。

< 5 代目 >

**1977年4月（トラック）**

排気量、全長・全幅・全高を拡大した新規格軽自動車「ハイゼット 55（ゴーゴー）ワイド」として発売し、翌月にはバンもフルモデルチェンジしました。当時は公害問題に伴い、自動車に対して高い環境対応が求められており、ダイハツは非常に厳しい排ガス規制に対応できるAB型550ccエンジンを新開発し、ハイゼットにも搭載しました。

< 8 代目 >

**1994年1月（トラック・バン）**

1991 年に実施された軽自動車規格変更に伴いフルモデルチェンジ。新開発の EF 型 660cc エンジンを搭載し、快適な走行性能を実現するとともに、積載性や使い勝手など、全方位で性能を向上しました。また、1980 年代からハイゼットの海外生産が始まるとともに、ハイゼットベースの現地専用車がインドネシアやマレーシアで生産されました。

< 9 代目 >

**1999年1月（トラック・バン）**

安全性の向上を主眼とした 1998 年の軽自動車規格変更に合わせて、全長・全幅を拡大しフルモデルチェンジし、「ハイゼット トラック」へ名称を変更しました。取り回しのしやすい「フルキャブ」スタイルを踏襲しながら、新国内衝突安全基準をクリアしたトップクラスの安全性を実現。また新開発エンジンを採用し、環境性能と走行性も向上しました。



バンも同時にフルモデルチェンジし、「ハイゼット カーゴ」へ名称変更。当代から運転のしやすさや快適性を追求し「セミキャブ」スタイルへ変更しました。イタリア人デザイナーであるジウジアーロ氏によるデザインを採用するとともに、トラック同様に安全性や走行性能を向上しました。

< 10 代目（現行モデル） >

**2004年12月（バン）**

トラックとは別プラットフォームを採用し、フルモデルチェンジ。新工場であるダイハツ車体（現ダイハツ九州㈱）大分（中津）工場の最初の生産車種となりました。デザインを一新するとともに、クラストップのロングホイールベースなどで安定性を向上。また、2017 年にマイナーチェンジし、予防安全機能「スマートアシスト」を採用しました。

**2014年9月（トラック）**

約 15 年ぶりのフルモデルチェンジ。積載性や使い勝手の良さなどを全面的に向上させるとともに、近年注目の高まる女性ユーザーに着目し、農林水産省の進める「農業女子プロジェクト」に参画し、豊富なカラーバリエーションなど、従来にない装備を多数採用しました。また、2018 年に一部改良し、予防安全機能「スマートアシスト」を採用しました。

※写真は各代の代表例です

【ハイゼット 60 周年記念サイト】

<https://www.daihatsu.com/jp/company/history/hi-jet60th/index.html>